

「障害」から「症」へ DSM-5からDSM-5-TRへ、何が変わった？



編集部

疾患名の日本語訳が大幅に変更

2023年6月、9年ぶりにDSMの日本語訳本が改訂となり、『DSM-5-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル』（医学書院）が発行されました。

今回の改訂による大きなポイントは、疾患名の日本語訳が大幅に変更となったことです。

タイトルにある「TR」は言わば「増補版」のような意味合いで、原書の診断基準や解説自体は大きく変わっていない部分もあります（とはいえ原書は100ページ以上増えています）。日本語版に関しては、日本精神神経学会が新たに策定した訳語で疾患名を統一しており、その分、原書以上に大きな変更があったと言えます。

大きな変更点としては、以下が挙げられます。

- ① disorders の訳を「障害」から「症」に変更した
- ② 疾患名の併記をなしとした
- ③ (DSM-5) という補足をなしとした

中でも、①の「障害」から「症」への変更によって、従来とは異なる疾患名になるものが出てきました（弊社内編集制作部では、進行中の他の書籍についても、変更の可能性のある単語をピックアップして1つずつ置換の可否を判断するという気が遠くなるような作業を行ったそうです）。

ぱっと見ではわからないアップデート

章立てや疾患に大きな変更はなく、唯一、「心的外傷及びストレス因関連症群（心的外傷後

ストレス症）」の章に、親密な関係にあった人との死別反応が長期間続く場合に適用される「遷延性悲嘆症（Prolonged Grief Disorder）」という疾患が新たに追加されています。

その他の疾患の診断基準については、DSM-5と比べ、ぱっと見ではどこがどう変わったのかわからないものもありますが、文言や表現が少し変わっていたり、特定用語（疾患の特徴をより精緻に表現するためのもの）が加筆・修正されていたりと随所にアップデートされています。

DSM-6はいつ出るの？

実は、気の早い読者の方からは社に「DSM-6はいつ出ますか？」というお問合せをいただいています。原著の改訂によるため未定です。

ただし、DSM-5-TRの内容はこまめにアップデートされそうです。現に2022年3月の原書発行からこの1年強のあいだですでに内容の更新が行われ（今回発行の日本語版に更新内容は反映されています）、今後も更新される可能性が高いです。

なお、DSM-5-TRの更新内容は米国精神医学会（APA）のホームページにてご確認いただけます。

最後に、右ページに主な疾患名の訳語の変更について表にまとめましたので、ご参照ください。

精

*米国精神医学会ホームページ：<https://www.psychiatry.org/psychiatrists/practice/dsm/updates-to-dsm>

表 DSM-5 と DSM-5-TR の主な訳語の変更

DSM-5	DSM-5-TR
自閉スペクトラム症／自閉症スペクトラム障害	自閉スペクトラム症
注意欠如・多動症／注意欠如・多動性障害	注意欠如多動症
限局性学習障害	限局性学習症
統合失調症スペクトラム障害	統合失調スペクトラム症
緊張病	カタトニア
精神病	精神症
精神症状	神経精神症状
精神障害	精神疾患
双極性障害	双極症
双極性Ⅰ型障害	双極症Ⅰ型
双極性Ⅱ型障害	双極症Ⅱ型
うつ病（DSM-5）／大うつ病性障害	うつ病
うつ病エピソード	抑うつエピソード
躁病エピソード	躁エピソード
適応障害	適応反応症
不安症／不安障害	不安症
強迫症／強迫性障害	強迫症
心的外傷後ストレス障害	心的外傷後ストレス症
摂食障害	摂食症
過食性障害	むちゃ食い症
パニック症／パニック障害	パニック症
社交不安症／社交不安障害	社交不安症
醜形恐怖症／身体醜形障害	身体醜形症
インターネット使用障害	インターネット使用症
アルコール使用障害	アルコール使用症
認知症（DSM-5）	認知症
パーソナリティ障害	パーソナリティ症
境界性パーソナリティ障害	ボーダーラインパーソナリティ症

日本精神神経学会（日本語版用語監修），高橋 三郎・大野 裕（監訳）：DSM-5-TR 精神疾患の診断・統計マニュアルより作成